

- ・東電の女性モニターの方々からのご意見等を踏まえて整理し、分かりやすい資料を作成。
- ・本評議会の一部の委員のご協力も頂き、地元の女性の方々から、内容や説明の分かりやすさなどについて、下記のようなご意見等を頂き、コンテンツの整理・改善を図っているところ。(※参考資料1参照)
- ・引き続き、コンテンツのブラッシュアップ(改善)を図るとともに、ブラッシュアップした資料を活用して、地元の方々へ情報提供を行っていく。

【地元の女性の方々からの主なご意見等】 (下線部分については、現時点で可能な限りで反映)

- ・短くてとっつきやすい言葉にして頂くことが重要だと思う。
- ・文の長さとしては、多くて3~4行ぐらいまでの説明にしないと、読む気がしない。
- ・「ALPS」や「ミリシーベルト」など、専門用語には、注意書きが欲しい。
- ・このレベルよりも、もっと思い切って、分かりやすい資料にした方が良い。
- ・(福島第一を題材とした漫画が出ているが)漫画が読んでいて分かりやすいので、そのぐらいの分かりやすさが欲しい。
- ・「廃炉とは何か」をきちんと一言で説明できるような資料であることが必要。
- ・興味を持つような内容を最初のページに持ってきたら良いと思う。
- ・生活に直結している課題への対応など、衣食住に関連する内容であれば見ると思う。
- ・主婦としては、廃炉自体が30~40年かかることは理解しているので、今、福島第一原発で何が行われているのか、働いている人はどんなことに取り組んでいるのかなど、「現場の今」が分かる情報を提供して欲しい。
- ・タンクの水は増えるばかりで減っていないのか、どのような設備でどのくらい浄化しているのかなどが、気になって仕方ない。
- ・作業員の人数が足りるのかが心配。
- ・「汚染水問題とは、どのような問題なの？」という問より、「タンクが増え続けているが大丈夫か？」という方が、分かりやすい。1

(1) 「放射線等に関する指導資料(福島県教育委員会)」への反映

- ・ 福島県教育委員会において、平成26年度に作成予定の第4版に、廃炉・汚染水対策に関する内容を追記することを、ご検討頂いている。

※「指導資料」とは、福島県教育委員会から県内各学校や全国の都道府県教育委員会に対して提示される教員向け資料（指導資料の中の参考データ等は授業等での資料として使われることも多い。）

(2) 福島県「小学生理科講座」指導者研修会での説明等

- ・ 平成24年度以降、福島県教育委員会が主催している「小学生理科講座」において、いわき明星大学の東之弘教授が指導者向けの講師として、県内の理数教育優秀教員(コアティーチャー)に対し、再生可能エネルギーに関する指導を行っている。今年度は、「小学生理科講座」に向けた指導者研修会において、廃炉・汚染水対策についても、一部紹介していただく。

(3) 文科省「放射線副読本」の教員向け研修事業等

- ・ 文科省は、本年2月に当該副読本を作成し、全国の小中高に、1, 200万部を配布。今年度は当該副読本の現場における効果的な活用に資するため、教員向けの研修事業の実施や指導資料等の作成を進める予定であるところ、廃炉・汚染水対策に関する内容を記載できないか、文科省に対して要請を行った。

○ 中長期ロードマップの進捗状況の説明(月1回実施)について

【自治体からの主なご意見等】(前回資料と同様)

- ・南相馬市:汚染水が漏洩した場合などについては、環境にどの程度影響があるのかが明確に分かるようにして欲しい。
- ・川俣町:資料のボリューム感が多く専門用語もあり解りにくい点もあるが、やむを得ない面もある。ただし、住民向けには、東電の資料のように、もっと分かりやすく作って欲しい。説明は、A3紙1枚程度の簡素な資料が良い。
- ・広野町:現行どおり、A3紙の概要資料で概要とポイントを説明し、必要に応じて、詳細版の資料で、詳しく説明する方式が良い。敢えて言えば、全体の流れで今どこに位置しているのかが分かるように、これまでの動きを時系列に整理した年表のような資料があれば、なお良い。
- ・楢葉町:専門用語を使わず、小学生にも分かるように説明して頂きたい。
- ・川内村:説明資料については、廃炉工程中のどの当たりの作業なのかが分かるとう良い。
- ・浪江町:廃炉全体について前月からの進捗が分かるよう、前月との比較表を別途東電に作成させて説明を受けている。
- ・葛尾村:工程が複雑で全体像が見えないので、各行程の進捗度合いを示す表があると良い。
- ・飯館村:原子力の担当部署が使うような専門用語はなるべく使用しないようにすべき。また、説明を受ける人は原子力の専門家ではないので、小中学生や一般主婦の方々に理解して頂けるような説明の仕方を心がけて欲しい。また、中長期ロードマップのようなシリーズものは、前月の説明と何が変わったのかを中心に説明して頂いた方が分かりやすい。

○ 現在の取組状況

4月以降、ご説明の際に使用する資料について、

- 1)全体の中の位置づけや進捗度合いが分かるように資料や説明を工夫する、
- 2)専門用語をなるべく使わない。使う場合にも解説をつける、

などの改善を図るとともに、原因や影響など事象の意味合いを伝えることを意識してご説明を行っている。

※ 参考資料2「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)[5/29]のリバイス版」を参照

○ 各地元自治体から住民の方々(避難されているの方々)への情報提供の方法

1) 毎月1～2回、広報誌やお知らせなどを郵送又は直接配布(全13市町村)

- ・毎月、ロードマップの概要版(一部)も同封(檜葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、田村市[都路地区に居住されていた避難者を対象])

2) タブレットを配布

- ・避難住民の希望世帯(富岡町、双葉町[今年度夏頃を予定])
- ・希望世帯(大熊町、浪江町[今年度を予定]<高齢者にも使いやすい機能も開発中>)
- ・全世帯(檜葉町、飯舘村)

3) フォトフレーム等を配布

- ・希望世帯(双葉町、浪江町、葛尾村、南相馬市[市外避難者のみ])

④ 地元住民の方々への情報提供(2)

○ 各地元自治体による情報提供の機会を活用させて頂くことについての主なご意見等

- ・専門用語については、注意書きなどが必要。
- ・ボリュームについては、A4やA3で1枚ぐらいが適当。
- ・広報誌に資料を同封する際には、分かりやすいことが重要であり、現在のロードマップの概要版1～2ページをそのまま同封しても、理解できる住民は少ないのではないか。
- ・前回の会議で放映したDVDを配布するのも良いのではないか。
- ・住民の方々の関心や分かりやすさなどからすると、廃炉の進捗率的な情報などの提供ができると良いかもしれない。
- ・トラブル等のマイナスの情報だけではなく、前向きな情報も提供していくことが重要であることから、厳しい状況下で頑張っている作業員の方々の日常的な作業の状況なども発信していくと良いのではないか。
- ・敷地内の図とリンクする形で、各取組の進捗状況が時系列的に整理されていると分かりやすいのではないか。
- ・港湾内外のモニタリングの状況を同封するのであれば、モニタリング地点に番号を入れて、紙面の端に番号順に記載すると分かりやすいかもしれない。

○ 今後の対応

廃炉・汚染水対策現地事務所において、今回新たに、福島第一原発で作業をされている方々の声などを紹介する「現地事務所ニュースレター」を作成することとした。(参考資料3参照)

今後は、各地元自治体のご協力も頂きながら、避難状況など各地域それぞれの事情に応じた情報提供等を進めていく。

報道例① 地下水バイパス

○「汚染井戸から放出も ー 水混ぜ計測 地元不安」(4/16)

○「福島原発の汚染水、21日に海洋放出」(5/20)

【事実関係】

- ・建屋内の地下水流入量を減らすため、建屋山側の井戸で数百トンの地下水をくみあげ、くみ上げた地下水の水質確認を行い、法令告示濃度(※)より低い運用目標(トリチウムの場合は40分の1)を満たしていることを確認し、放水を実施。
- ・運用目標を遵守するため、東電による測定だけでなく、日本原子力研究開発機構や、東電と資本関係のない複数の分析機関が定期的に水質を分析・確認することとし、国の現地事務所職員が適宜、放水作業に立ち会うこととしている。
- ・個別の揚水井の地下水の水質が運用目標等以上となった場合、一時貯留タンクへの移送を一旦停止し、傾向監視を強化する。傾向監視の結果、一時貯留タンクへの影響が無いことを確認できれば、移送を再開する。
- ・周辺海域のモニタリング結果を公表(放水前後で水質に有意な変化がないことを確認)

○「地下水くみ上げ停止」、「トリチウム基準超え」(5/28)

【事実関係】

地下水バイパス用のくみ上げ井戸12箇所のうち、1箇所の井戸からくみ上げた地下水のトリチウム濃度が、1リットルあたり1,700ベクレルと、運用目標(1リットルあたり1,500ベクレル、法令告示濃度(※)の40分の1)を超えたため、当該井戸1箇所からの地下水くみ上げを停止。

(※)法定告示濃度

その濃度の水を1年間毎日2リットル飲み続けた場合に、被ばく量が1ミリシーベルトとなる濃度

報道例② 「凍土壁に疑念－意図せぬ結果 心配 東電改革監視委 クライン委員長」(5/2)

【事実関係】

・5/1の記者会見において、東電改革監視委員会のデール・クライン委員長は、以下のとおり発言。

「凍土壁について、私は、施工する前に十分な調査が必要だと考えている。凍土壁自体は、世界中で使われており技術としては確立されている。発電所周辺の水の流れ等、水文学的な解明が十分ではない。分かっていることは、凍らせればそこは、水は通らないということ。凍土壁を作って意図しなかった影響がでるのかを知りたいと考えている。政府主導で凍土壁を検討しているといったことは認識しているが、政策ではなくて科学が優位に立つことを願っている。東電としても、試験的な井戸でプロセスが解明できるようにしている。様々な試験を通じてベストな解決策でないのなら、それを東電が政府に言うべき。委員会としては安全と環境の保全に関心を持っている。きちんとした調査をした上で実施すべき。」

・原子力規制委員会の監視・評価検討会で、地盤沈下による影響を確認した上で工事着工(6/2)

報道例③ 「メド立たぬ「切り札」ALPS」(5/24)

【事実関係】

- ・多核種除去設備(ALPS)の停止には、3系統(A、B、C系)いずれも、フィルターの部品が放射線で劣化したことが原因で、放射線への耐久性が高い材質を用いた部品に取替中。
- ・B系は5月23日に運転再開、A系は6月9日、C系は6月19日の運転再開を予定している。
- ・B系のトラブルを踏まえて、放射能濃度の測定頻度を上げる等、監視方法を見直したことにより、A系・C系の異常を早期に検知し汚染拡大することなく運転を停止することができた。

報道例④ 「配管結合部分 水漏れ」(5/31)

【事実関係】

- ・1号機の原子炉格納容器の下部の周囲を、国の事業で開発した遠隔操作ロボットで調査したところ、漏えい箇所(格納容器内の圧力を調整するための配管)が判明。
- ・格納容器から水が漏れていることは以前から分かっていたが、今回の調査により、漏えい箇所が特定できたことは、廃炉に向けて必要となる止水作業にとって重要な情報が得られたもの。

【基本的な考え方】

透明かつ迅速に行うことはもとより、

1. 事象の概要だけでなく、原因や影響、全体の廃炉作業での位置づけなど、事象の意味合いをご理解頂ける形で
2. 問題の程度・度合いについて、客観的な指標などと比較・評価いただける形で
3. 起きた事象の報告だけでなく、それに対する対処対応策も併せて
4. 文字だけでなく、イラストや画像等を活用した分かりやすい形で
5. ホームページだけでなく、インターネットを利用されない方々にも身近なメディアを通じて地元の皆さまへの情報提供・コミュニケーションを行うよう努めていきます。

【正確な情報の積極的な発信】

誤解を招く報道等については、正確な情報を積極的に周知していきます。

1. 諸外国や海外機関・メディアへの情報提供

- (1) 外務省等を通じて、全在京外交団(計194の在京大使館、国際駐日事務所等)及びメディアに対する情報提供を実施。
地下水バイパスの運用に際し、放出前の地下水分析結果及び放出後の海水モニタリング結果などの情報提供を実施(平成26年5月20日以降随時)。また、外交団を対象とした説明会を開催(5月30日)。
- (2) 海外においても、在外公館・代表部を通じ、国際機関(IAEA等)や外国メディアに対する情報提供を実施。IAEAは評価を加えた上で発信。
- (3) 政府関係機関英文ホームページへの福島第一原発関連情報の掲載。在外公館ホームページにおいても、関連ページの紹介を実施(現地語による説明含む)。

2. 海外専門家(来日、シンポジウム等)を通じた情報発信

- (1) IAEA(国際原子力機関)による第2回レビュー(来日)【H25.11.25~12.4】：12/4に記者会見を実施
- (2) IRID(国際廃炉研究開発機構)国際顧問の来日【H26.1.9・10】：1/10に代表者がインタビュー対応
- (3) 日米廃炉・除染福島復興フォーラム(廃炉・除染の日米産業協力)【H26.2.18・19、東京】
- (4) IRIDの国際エキスパートグループの来日【H26.2.17~21】：2/21に代表者がインタビュー対応

3. 国際会議等における福島県産品等のPR

- (1) ジャパン・コンテンツ・ショーケース2013

日時:10月22日(火)~24日(木)、場所:ホテルグランパシフィック LE DAIBA

内容:福島の地酒を使用した鏡割、県内の観光を紹介する映像の上映 等

- (2) ASEANフェア2013

日時:12月15日(日)、場所:東京プリンスホテル

内容:福島の地酒を使用した鏡割、観光・県産品のPR 等

- (3) 外務省 在京外交団との復興支援意見交換会【右の写真】

日時:2月4日(火)、場所:グランドプリンスホテル新高輪

内容:福島の地酒を使用した鏡割、福島県産品を使用した料理の提供 等

